

紅緑偏「滑稽俳句集」を読み解く 13

2010.06.21 (聞き手 高橋素子)

高橋 > 「温故知新」を目標に滑稽の本質を求めて、ご解説戴いて来た紅緑の「滑稽俳句集」も本日からいよいよ夏の部に突入です・・

これまで一年かけて、凡例・自序・春の部の詠物まで、師の滑稽句を参考に引用させて戴きながらの面白く分り易いご解説・・
本当に有難うございました。

少し物知りになったという満足感と達成感の嬉しい気持ちでいっぱいです。

会長 > 私は自身の勉強の意味で読解をしているのです。感謝されては困ります。
高橋さんも、文芸活動の上で、なにかの役に立つかも知れない。だから高橋さんに感謝しない。

冗談です ありがたいです。

高橋 > それでは、夏の部「天文」の紅緑の「五月雨」の句から始めさせて戴きますね。

☆下手が書きし墨繪の山や五月雨 紅緑

この場合「五月雨」は「さみだれ」ではなく、五音で「さつきあめ」と読むのですね。
紅緑は自分の描いた墨繪を謙遜してますよ。

会長 > 謙遜でなく自嘲です。自らを嘲るのが俳句です。
他を誇るのが川柳です。
しかし、本当に下手なら描いてることを隠しますか

ら、半分自慢してるんでしょう。

もっとうまい奴はいくらも居るからここはひとつ
自嘲・・・そうか 謙遜は半分は自慢だな、
ここで一句

★同じこと言葉を変えて屁理屈屋

高橋 > そう言えば会長の俳句にも
★五月雨の頭をかばひ週刊誌 健
という面白い句が・・・

会長 > これはね・・・読み終えた週刊誌ですよ。
白いポストに捨てる奴ですよ 冗談です。

私は週刊誌は読まないんです。
あれは見出しがスゴイがシンショウボウダイという奴
で腹が立つだけ。
ああ、俳句の話ですね。
週刊誌はその程度の使い方しかできない。
大切なのは頭髪ということですね

高橋 > 成る程！
体は濡れても頭髪をかばいという句ですね。（笑い）
次の季語に参りま～す。

「雲の峯」ですよ。数句あります。

☆**もろこしは裏を見るかも雲の峯** 柳居
雲の峰が中国の方向にあるから、中国からは
雲の裏側を見ているという事ですな。

☆**蜃や吐きそこなひて雲の峰** 也有
会長、会長、パソコンのフリー百科事典「ウィキペ
ディア」の蜃（しん）の項に面白い絵がありますよ。
それによると蜃とは蜃気楼を作り出すといわれる伝説
の生物。
巨大なハマグリとする説と竜の一種とする説がある。

蜃気楼とは、「蜃」が「気」を吐いて「楼」閣を出現させると考えられたことに由来する。
霊獣の一種とされることもある などと書かれていますよ。ご説明下さいね。

会長 > ☆**もろこしは裏を見るかも雲の峯** 柳居
雲の峰の裏側はどうなっているのか・・・という疑問が下敷きになっているのですね。
裏表似たやうなもの雲の峯ですがそう言っちゃあ 身も蓋もない。

☆**蜃や吐きそこなひて雲の峰** 也有
蜃気楼は不思議だったと思いますよ。
今は楼閣出現の科学的解明がされていますがね。楼閣にならずに雲の峰になった。
故事をうまくつかっています。
峰雲は蜃の失敗作だと也有ですね

高橋 > 「雲の峯」の句続けますね。

☆**雲の峯大工屋根やを憐めり** 几董
☆**寝むしろや足で数へる雲の峯** 一茶

ご説明下さいね。

会長 > ☆**雲の峯大工屋根やを憐めり** 几董
屋根の上で暑いだろうと大工さんが思うわけですね・・・そう几董が想像した。

☆**寝むしろや足で数へる雲の峯** 一茶
雲の峰は手ゆびで数えるのも大変ですよ。
足で数えられますか、横着ですね一茶さん
一句詠みましょう。

★**雲の峰一茶の足に数へられ** ですね。

高橋 > **★雲の峰芯のあたりは固からむ 健**
これは、「雲の峰」と聞けばパッと頭に浮かぶ会長の滑稽の代表句のひとつですね。

毎朝楽しみの師のメルマガ（愚陀佛通信）2010.05.11号の「滑稽の作法」にこの句の誕生ドラマが書かれていますね。
学生でありながら某テレビ局で月給を貰われていたとか・・・（笑い）

会長 > 美術進行という係りでした。
テレビのドラマ殺人のシーン女優さんの胸にナイがつきささっている。
あれは女優さんの胸にりんごを仕掛けて上からナイフを刺しておく。
その仕掛けをするわけです。いい役です。
あれれテレビ局のハナシでしたか

高橋 > 女優さんの殺人事件？
それもナイフを胸に？
・・・失敗しました！

始めから月給でなくドライアイスによる霧の発生のお話をすべきでした。（笑い）

では、次の季語「夕立」に参りま～す。
一茶の句ですよ。三句ありますよ。

☆兎角してはした夕立ばかりなり 一茶
☆寐並んで遠夕立の評議哉 一茶
☆夕立のとり落したる小村哉 一茶

最初の句、「はした夕立」はちょっとした短い夕立ですよ。夕立も遠夕立となると流石に余裕がありますね。

会長 > ☆兎角してはした夕立ばかりなり 一茶
夕立はやはり大夕立がそれらしいですから
はした夕立は肩身がせまい

☆寐並んで遠タ立の評議哉 一茶

隣村の上空の黒雲を見て判断しているのでしょう

☆タ立のとり落したる小村哉 一茶

タ立も小さな村は省いてしまうということですね。

★そんなつもりはなかったですがと大タ立

なんか弁解がましいですね

高橋 > ☆タ立や江戸は傘賣あしだ賣 大江丸

☆タ立や来るべくとして来ずなりし蚊 虚子

二句目は、やと蚊の二箇所切れていて、来そうでもないのはタ立でもあり、蚊でもある様に思えますが、でも「・・なりし」が蚊を修飾してますからこの句の重点は蚊の方にありますよね？

会長 > ☆タ立で傘が売れる足駄が売れる

ということ もう一句は 激しいタ立では蚊も舞うことは出来ませんから来ずなり・・です句末の「蚊」は疑問の「か」もかねていて虚子の駄洒落です。

高橋 > 会長のタ立の句と言えば・・

沢山有りそうでなかなか・・あっ！

句集「逃水」に一句見付けましたよ。

★タ立やその降りやうをほめらるる 健

一茶のはしたタ立とか遠タ立と真反対のタ立ですね。

会長はどんなタ立がお好みですか？

激しく降ってぱっと止む男性的なタ立とか？

会長 > ううんタ立がなにを引き起こすかですね

★妙齡の腰を濡らして大タ立

ってのはいかがですか

高橋 > やめて下さい。また品のない句を・・・

会長 > ハリイ文芸ですから

★みずうみの表を汚し大夕立 健

ってのが拙句のなかではよろしいかと
これは男性的

高橋 > あっ！ごめんなさい。
確かに名句を忘れていました。
裏切り構成の滑稽ですね。

会長 > その通りです。

高橋 > それでは、天文の最後の季語「夏の月」にの句にゆかせて戴きますね。

☆河童の戀する宿や夏の月 蕪村

「河童の戀する宿」ってどんな宿なのでしょうね。
そういえば会長の句に夏ではなくて

★春の月歩幅にゆれてをりにけり 健

という素敵な句がありますね。
春の夜にお月様までが歩幅にゆれてお供してくれいる。ロマンチックな気分になり、私の大好きな句ですが、春の月と夏の月、会長は、どの様に区別して句をお詠みですか？

会長 > ううんあんまり上を見ないのでわからん。
冗談です。

春の月は一物仕立てで月そのものを詠む。
夏の月は とりあわせて詠むというか 月そのものを
個性的に扱いにくいところがありますね

高橋 > よくわかります。有難うございます。
それでは、夏の部「時令」（年中行事）の句に参りますね。季語は「短夜」也有の句からですよ。

☆短夜や柵に鼠の明けのこり 也有
☆みじか夜のかアと明けたる鴉哉 子規

ご説明くださいね。

会長 > ☆短夜や柵に鼠の明けのこり 也有
明けのこり・・夜からずっと・・朝もまだネズミの音が
がしていて恨めしい

☆みじか夜のかアと明けたる鴉哉 子規
スナオな句ですがだからどうしたという句ですね。

高橋 > ☆短夜や遊女の寝顔馬鹿げたる 虚子
☆短夜の蜘蛛の圍かとも眼やにとも 虚子
☆短夜を蚤の夫婦の別れかな 紫影
☆短夜を鼠退治に明けにけり 塵外

続けてご説明下さいね。

会長 > ☆短夜や遊女の寝顔馬鹿げたる 虚子
作者は目覚めていて一夜をともした遊女の寝顔は口
あいて涎でも垂らしていたのでしょうか。

高橋 > 虚子はそういう・・これは体験でしょうか

会長 > 体験だと思いますよ

子規にも遊女の句はあります。

☆**短夜の蜘蛛の圍かとも眼やにとも** 虚子

虚子はなんでも句にしましたね。

守備範囲が広いです。

蜘蛛の圍かとも眼やに・・・粘りが出ています。

俳句は継続です粘りです

☆**短夜を蚤の夫婦の別れかな** 紫影

人間の場合もいいですが ここは蚤とすると季語の重複ですが 蚤でしょう アフレがありますね

☆**短夜を鼠退治に明けにけり** 塵外

悔しさが滲んでいますね。

なんて馬鹿な時間の過ごし方をしたのかと

高橋 > なるほど！俳句は継続で粘りですか。
次の季語は「暑」。許六の句からですよ。

☆**うどんやは人に喰れて暑さ哉** 許六

この句は「紅緑の滑稽俳句論」と会長が位置付けられた「自序」（著者自らが書いた序文）の中に出て来ましたね。

「暑さ」をテーマに元禄・享保・天明・文化と時代別に面白く比較していて、理屈を脱する事が出来ない句としての元禄の代表に許六の句が挙げられていますね。

会長 > ははあ・・・そんなに悪い句とも思えません

☆**うなぎ屋は人に喰はれて暑さかな**

季が動きますね。

高橋 > ☆**其人は二十貫目の暑さ哉** 柴影
☆**朝寐しておのれくやしき暑さ哉** 太祇
☆**井戸掘りの浮世へ出たる暑さ哉** 也有

続けてご説明下さいね。

会長 > どれも可らしい句ばかりです ただし深味はない

☆其人は二十貫目の暑さ哉 柴影

其人は怒りますよ。そりほどの体重じゃあない

☆朝寐しておのれくやしき暑さ哉 太祇

正直な句ですね。朝寝してしかも暑い

朝寝して自業自得の暑さかな ですね

☆井戸掘りの浮世へ出たる暑さ哉 也有

気温たけじゃなくて 煩雑な浮世の持つ

熱気が描かれていますね

高橋 > 也有の句続けますね。

☆うその旅して能因の暑さかな 也有

この句は表現が多才で理屈の少ない也有の稀な句として自序の中でご説明戴きましたね。

旅吟の先駆者としての能因法師が一ヶ月半位しかかからない京から白河の関までの旅を

☆都をば霞とともにたちしかど秋風ぞ吹く

白河の関 と詠んで旅にも出ずに、旅に出た様に見せかけるために庭に出て肌を焼いていた・・・（笑い）という面白いお話をして下さいましたね。

会長 > ☆うその旅して能因の暑さかな 也有

庭を歩いて日焼けをつくる・・・顔黒の元祖みたい人ですから 暑いでしょう。

日焼けするためだけだから暑い

ジョギングの結果付属して日焼けするなら暑くない。

高橋 > ☆物申の聲にももの着る暑さ哉 也有

表に案内を請う人が来ているので、暑いのに仕方なく

服を着る・・・その暑さですね。

☆肥取を先へ立たる暑さかな 也有

ご説明下さいね。

会長 > ☆物申の聲にももの着る暑さ哉 也有
予告なき来客に慌てて・・・ですね。
サトウハチローさんは 夏はいつも裸で過ごして 来客があると 団扇で前を隠して「よう来たよう来た」と 出てきたそうですよ。

☆肥取を先へ立たる暑さかな 也有
強烈な臭ひの桶が先を行くわけですから 暑いですね

高橋 > 臭いが後をひくようで・・・恐縮ですが、本日はこの位で・・・。

今回も面白いご解説本当に有難うございました。

紅緑は自序の中で「真の滑稽は理窟を離れるもの」として理窟を嫌っていますね。
そこで最後に我等が滑稽会長に第 I 回目に示された傑作句

★懸想文？一見暑中見舞だが 健

以外に理窟を離れた「平成の滑稽句」をもう2～3句お示し戴ければ幸いです。

会長 > ★理窟抜き暑い真夏日なんだもの（笑い）
理窟の句ならありますよ。

★どこが違ふの夏痩せとダイエット 健

これは川柳でしたか

(2010年7月号)
